

HOUSE FOODS REPORT



株主のみなさまには日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2009年3月期第2四半期の事業の概況をご報告させていただきますので、ご高覧賜りますよう、お願い申し上げます。

売上計上基準の変更を行いましたことから、売上高は減収となりましたが、実質、前年同期並みの売上を確保しました。

当第2四半期累計期間のわが国経済は、サブプライムローン問題に端を発する米国金融危機や資源価格高騰による企業収益低下の影響で、設備投資や個人消費の伸びが鈍化するなど、景気の減速感が一段と強まってまいりました。

売上面におきましては、内食回帰や米飯回帰のなか、ルウカレー製品やレトルトカレー製品が“ファイトカレープロジェクト”などの販売促進活動に積極的に取り組みましたことにより順調に推移いたしました。また、「ウコンの力」が引き続き大きなご支持をいただく一方で、飲料製品が苦戦いたしました。これらの結果、連結売上高は前年同期比4.5%の減収となりました。

なお、本年4月1日より販売制度を改定し、従来、販売費及び一般管理費に計上されていた経費の一部を販売価格から差し引き、ネット化する変更をいたしました。このため、前年同期とは売上高の計上基準が異なり、同一基準で比較した場合は、連結売上高の前年同期比は0.1%の増収となります。

連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益は増益となりました。

利益面でございますが、「ウコンの力」や主力のカレー製品などの増収に加え、継続的なコストダウンへの取組やマーケティングコストの効果的運用により原材料価格の上昇を吸収しました結果、連結営業利益は前年同期比20.7%の増益、連結経常利益は前年同期比21.7%の増益、連結四半期純利益は、前年同期比45.3%の増益となりました。

中間配当金は、1株につき11円とさせていただきます。

2009年3月期の中間配当金は、1株につき11円とし、期末配当金も同額の11円とさせていただきます。予定にしております。

当社グループは、株主のみなさまへの利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけ、業績・事業計画等を総合的に勘案し、安定的な配当を実施してまいります。

通期は連結営業利益106億円をめざしてまいります。

2009年3月期の見通しでございますが、景気の先行きは、大変厳しい状況が続くものと予想されており、世界経済の動向次第では、さらに下振れするリスクも残されております。個人消費につきましても、今しばらくは、消費者の慎重な姿勢が変わらないものと見込まれ、また、昨今の原材料価格の高騰は予断を許さない状況です。これらの要因や当第2四半期累

計期間の業績を考慮して、2008年5月13日発表の通期の業績予想を修正し、連結売上高は2,270億円(前期比2.9%減：ただし、売上計上基準を同一基準で比較した場合は2.0%の増)、連結営業利益は106億円(前期比19.9%増)、連結経常利益は117億円(前期比30.5%増)、連結当期純利益は55億円(前期比53.8%増)を予定しております。

当社グループにおきましては、今後も継続的なコストダウンやマーケティングコストの効果的な運用に努め、収益力の向上に取り組んでまいります。

「お客さま起点の経営」を、さらに進めてまいります。

食の安全に関する問題が相次ぐなか、品質や安全性に対する企業の誠実な姿勢が問われております。当社グループといたしましては、「お客さま起点の経営」を第一に、健康とおいさを両立させた製品開発や安全・安心をお届けする品質保証体制の強化をさらに進めてまいります。

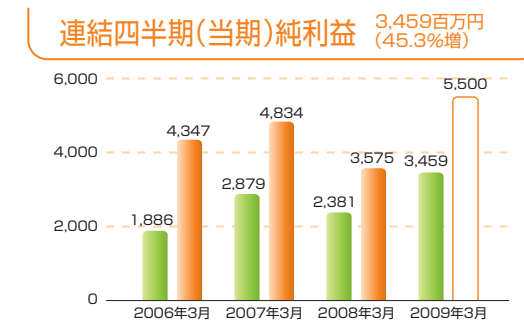
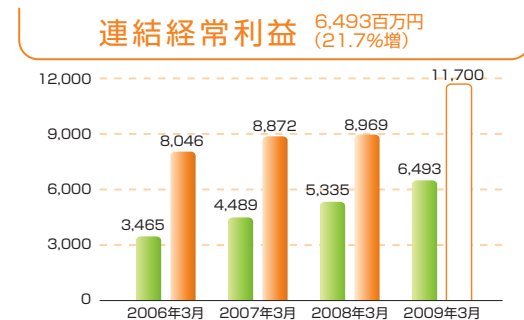
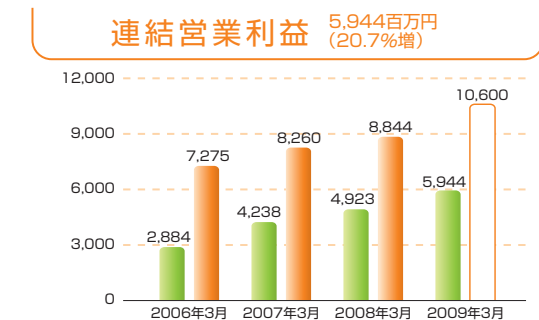
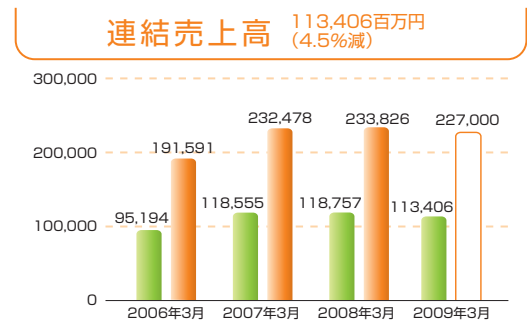
何卒株主のみなさまにおかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2008年12月

取締役社長 小瀬 昉



■ 第2四半期累計(中間期) ■ 通期 □ 通期目標 単位:百万円



食料品

物価高を背景とする節約志向で外食を控える傾向が強まるなか、ルウカレー製品「こくまろカレー」やレトルトカレー製品「咖喱屋カレー」は、積極的なキャンペーン活動が奏効し好調に推移いたしました。シチュー製品では、メニュー提案などで需要喚起を図りました主力の「シチューミクス」や「北海道シチュー」が順調に推移しましたほか、カップ製品の「スープdeおこげ」が増収となりました。

健康食品は、「ウコンの力」がウコンの特性とともに製品のおいしさを訴求したプロモーション活動を展開し、引き続き売上を大きく伸ばしました。飲料製品では、「六甲のおいしい水」は厳しい価格競争の影響もあり前年実

績を下回りました。

海外事業においては、米国の豆腐事業が新規取扱の増加などもありドルベースで順調に売上を伸ばしましたことに加え、中国のルウカレー事業が好調な推移を示しました。また、米国やアジア圏において店舗展開を進めているカレーレストラン事業も、売上拡大に寄与しております。

業務用製品では、継続的なメニュー提案を進めました結果、フレーク・ルウ製品が順調に推移いたしました。

以上の結果、食料品の売上高は1,078億20百万円、前年同期比4.8%の減収、営業利益は76億74百万円、前年同期比37.5%の増益となりました。

運送・倉庫業他

物流事業は、当社グループの飲料製品の売上が減少した影響により、グループ内取引が伸び悩んだものの、グループ外は取引の開拓が進み、前年実績を上回りました。

食品分析事業につきましては、当社グループ内外ともに取引が増加したことにより、増収となりました。

以上の結果、運送・倉庫業他の売上高は55億86百万円、前年同期比0.8%の増収となりましたが、営業利益は原油価格高騰に伴う物流事業の輸送コスト増加などにより2億65百万円、前年同期比46.8%の減益となりました。

※本年4月1日より販売制度を改定し、従来、販売費及び一般管理費に計上されていた経費の一部を販売価格から差し引き、ネット化する変更をいたしました。このため、前年同期とは売上高の計上基準が異なっております。2009年3月期第2四半期の連結売上高は前年同期比4.5%の減収となりましたが、同一基準で比較した場合の前年同期比は0.1%の増収となります。

事業別売上高構成比

〈食料品〉

香辛食品類 27.7%



〈食料品〉

加工食品類 12.9%



〈食料品〉

調理済食品類 17.3%



〈食料品〉

飲料・スナック類他 37.2%



〈運送・倉庫業他〉

運送・倉庫業他 4.9%



CSR活動への取組

CSR活動とは

相次ぐ企業不祥事の発生などを背景に、企業の社会的責任が問われるなか、単に売上・利益をあげるためだけでなく、製品をお買い上げいただくお客さま、株主さま、取引先各社、近隣住民のみならず、従業員も含めた、様々なステークホルダー^(※1)に配慮した企業活動が求められています。このような企業の活動は、CSR^(※2)活動と呼ばれており、当社では、全てのステークホルダーのみならずと協調を図りつつ、末永く発展する企業になるよう、本年4月に「CSR推進室」を設置いたしました。CSR活動を通じて、企業が求められる様々な責任にお応えしていきたいと考えております。

※1) ステークホルダー (Stakeholder)
企業に対して利害関係を持つ人

※2) CSR (Corporate Social Responsibility)
企業の社会的責任

ハウス食品が考えるCSR活動

CSR活動は、企業活動そのもののことであり、特定の行動だけを指すわけではありませんが、当社では、下図のように、「コンプライアンス責任」、「従業員の支援」、「品質保証への取組」、「環境への配慮」、「社会貢献活動の強化」の5つの視点を、CSR活動のベースとして取り組んでいます。

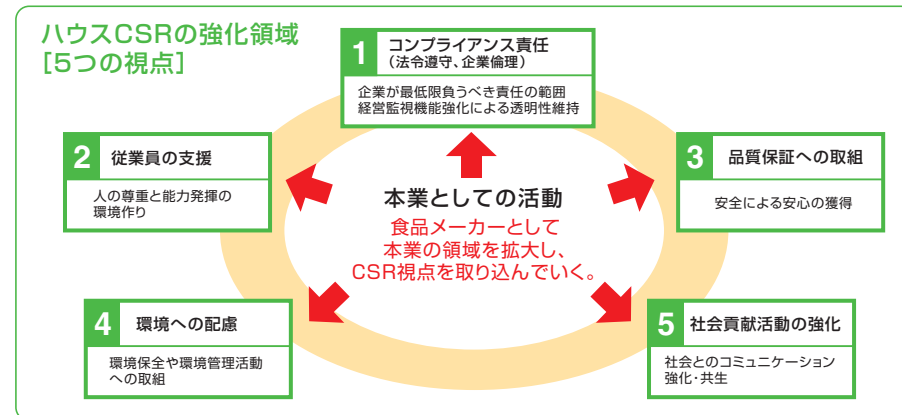
特に、食の大切さ、料理をする楽しさなどを学ぶ場をご提供する食育活動や、自然の恵みを生み出す地球環境に

配慮した活動に、これからもより積極的に取り組むことで、食品会社として社会に貢献することを願っております。

CSR活動の推進を経営の重要課題の一つと考え、継続的に取り組んでいくことで、社会から信頼をいただける企業をめざしてまいります。



妙高食育体験教室



インタビュー

CSR推進室の役割についてお聞かせください。

4月1日より新たにCSR推進室が設けられ、初代の責任者となりました。これまでも各々の専門部署でCSRに取り組んできておりますが、これからはCSR推進室がこれらの連携をとり、サポートをするとともに、活動内容を社外へ情報発信することで、CSR経営の旗振り役になりたいと考えています。

現在の活動のポイントをお聞かせください。

まず、世界的課題である地球温暖化問題に取り組むことが大きなテーマです。ハウス食品では、環境マネジメントシステム“ISO14001”を既に全社で統合認証を受け、温暖化対策に積極的に取り組んでおり、京都議定書で日本が約束しましたCO₂削減目標のマイナス6% (1990年比)を上回るマイナス10.6%を、2011年度CO₂総量の削減目標としています。目標達成に向けて、社員全員が日々の仕事の中で取組課題を明確にし、着実に成果を上げられるよう社内での啓蒙活動やサポートを行っています。



ファミリーウォーク

また、お客さまとともに活動するイベントにも注力しています。現在、六甲山での小学生の皆さんの環境保全活動「こうべ森の小学校」に参画しているほか、幼稚園児を対象とした「はじめてクッキング」や、ご家族で参加できる「ファ

CSR推進室長
池本 正巳



ミリーウォーク」を開催しています。これらの企画は、回を重ねるごとに、食や健康の大切さを再認識するイベントとして評価を頂戴できるようになりました。このような、食品会社の長をいかしたCSR活動をさらに検討中です。

今後どのようなことに注力していきますか？

先ほど申しあげたCO₂削減目標達成のためにも、社員一人ひとりが環境問題と向き合い、自ら進んで取り組むよう働きかけていきます。現在、工場や本社の周辺で社員が定期的にクリーン活動を実施していますが、このような地道な取組も大切にしていきたいと考えております。また、CSR活動をグループ会社にも展開し、ハウス食品グループとして一貫した活動にしたいと思っております。

CSR活動の考え方を組織の風土として浸透させ、継続的に実施していくことで、より信頼される企業として認められるよう努力してまいります。



クリーン活動 (東京本社)

モンドセレクションで「和香り」が最高金賞を受賞!!

6月2日、オーストリアのウィーンで「第47回モンドセレクション2008」の授賞式が開催され、「和香り」＜一味唐がらし＞＜七味唐がらし＞＜粉山椒＞が最高金賞を受賞いたしました。モンドセレクションは世界中から優れた製品を発掘、顕彰することを目的とし、1961年から開催されている国際的な食品コンテストです。原材料、製法、包装にこだわった「和香り」が世界的に評価されました。

この他、「プライムバーモントカレー」＜甘口＞＜中辛＞＜辛口＞、「プライムジャワカレー」＜辛口＞が金賞を、「プライムジャワカレー」＜甘口＞＜中辛＞が銀賞を受賞しております。



プロゴルファーの石川遼選手が ファイトカレープロジェクトメンバーに!

「『日本の国民食』といわれるカレーは、みんなの元気の源になる」これはカレーの最大価値です。この価値を活かし、日本人一人ひとりの心身の元気、そして日本の元気を支えていくために立ち上がったのが「ファイトカレープロジェクト」です。

プロジェクトでは様々な分野で活躍するスペシャリストが、元気の素を専門的な立場から捉え、ココロとカラダが元気になる「ファイトカレー」を提案しております。

この度、プロゴルファーの石川遼選手をスペシャルメンバーとして起用。当社カレー製品のコマーシャルにも出演し、爽やかな笑顔で日本中を元気にしています。



子どもから大人まで家族みんなで楽しめる鍋メニュー

「カレー鍋つゆ」新発売!

特製カレーだしとスパイスにこだわった新しい鍋メニュー「カレー鍋つゆ」を本年8月に新発売いたしました。

＜寄せ鍋風＞は焼津産かつお、北海道産昆布のkok深いだしと粗挽きスパイスの豊かな香りが特徴の濃厚なカレー鍋つゆで、＜ちゃんこ鍋風＞は国産丸鶏のまろやかなだしと直火焙煎スパイスの香ばしい香りが特徴のすっきりとした中にもkokのあるカレー鍋つゆです。



よく使う鍋の材料はもちろん、普段は鍋の材料に使用することが少ないキャベツやもやしなどの野菜もおいしくお召しあがりいただけます。また、残ったつゆにごはんとチーズを加えることで、これまでの鍋のシメでは味わえなかった“リゾット”をお楽しみいただくこともできます。(2009年2月末までの期間限定販売)



秋田県・全農あきたと 『きりたんぼカレー鍋』で共同取組

地産地消の取組として、「カレー鍋つゆ」を使用した『きりたんぼカレー鍋』の共同プロモーションを秋田県、全農あきたと展開しております。郷土料理とカレー鍋を融合した新しいご当地鍋『きりたんぼカレー鍋』は、秋田県内の農産物を全国に広める“あきたベジフル大使”を務め、当社ファイトカレープロジェクトのメンバーでもある野菜ソムリエの王理恵さんが監修し、プロモーション活動のサポートも行っております。



濃厚で芳醇なレモンとはちみつの深い味わい 「C1000味わいレモン」 新発売!

レモンに含まれている8種類の成分(6種類のビタミン、クエン酸、レモンポリフェノール)に、はちみつを融合した飲料がハウスウェルネスフーズ株式のC1000シリーズから発売されました。

レモンの風味に、はちみつのkokを加えた濃厚で芳醇な味わいが特徴です。



連結貸借対照表

単位:百万円

	当第2四半期末 (2008年9月30日現在)	前 期 末 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	99,867	90,806
現金及び預金	14,749	31,409
受取手形及び売掛金	43,265	39,817
有価証券	25,794	4,371
商品及び製品	7,279	6,623
仕掛品	839	840
原材料及び貯蔵品	3,115	3,023
繰延税金資産	2,993	3,041
その他	1,843	1,690
貸倒引当金	△ 9	△ 8
固定資産	133,154	137,455
有形固定資産	61,850	62,667
建物及び構築物（純額）	21,044	21,395
機械装置及び運搬具（純額）	11,555	12,628
土 地	27,063	27,113
建設仮勘定	746	274
その他（純額）	1,442	1,257
無形固定資産	15,553	17,739
のれん	12,335	14,503
ソフトウェア	2,936	1,879
ソフトウェア仮勘定	113	1,166
その他	168	191
投資その他の資産	55,752	57,049
投資有価証券	46,807	48,932
長期貸付金	165	34
繰延税金資産	313	208
長期預金	2,100	2,100
前払年金費用	3,896	3,191
その他	2,661	2,779
貸倒引当金	△ 190	△ 195
資産合計	233,021	228,261

	当第2四半期末 (2008年9月30日現在)	前 期 末 (2008年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	44,366	41,255
支払手形及び買掛金	23,702	20,156
短期借入金	657	603
未払金	12,524	14,719
未払法人税等	2,769	1,748
役員賞与引当金	28	76
その他	4,685	3,954
固定負債	6,196	6,066
長期未払金	676	846
繰延税金負債	2,197	1,871
退職給付引当金	2,519	2,731
役員退職慰労引当金	29	20
その他	775	598
負債合計	50,562	47,321

純資産の部		
株主資本	178,557	176,483
資本金	9,948	9,948
資本剰余金	23,868	23,868
利益剰余金	146,057	143,977
自己株式	△ 1,317	△ 1,311
評価・換算差額等	3,616	3,465
その他有価証券評価差額金	4,226	3,755
為替換算調整勘定	△ 610	△ 289
少数株主持分	287	992
純資産合計	182,459	180,940
負債純資産合計	233,021	228,261

連結損益計算書

単位:百万円

	当第2四半期 累 計 期 間 (2008年 4月～ 2008年 9月)	前中間期 (2007年 4月～ 2007年 9月)
売上高	113,406	118,757
売上原価	61,757	62,337
売上総利益	51,649	56,420
販売費及び一般管理費	45,704	51,497
営業利益	5,944	4,923
営業外収益	720	694
受取利息	199	223
受取配当金	209	213
持分法による投資利益	162	—
為替差益	—	70
その他	151	188
営業外費用	170	282
支払利息	25	16
持分法による投資損失	—	71
為替差損	121	—
その他	24	195
経常利益	6,493	5,335
特別利益	5	254
固定資産売却益	1	12
貸倒引当金戻入	—	8
投資有価証券売却益	2	11
関係会社株式売却益	—	220
その他	2	3
特別損失	277	852
固定資産除却損	111	95
投資有価証券評価損	0	364
ゴルフ会員権等評価損	—	23
固定資産減損損失	—	361
退職給付制度改定損	129	—
その他	36	10
税金等調整前四半期（中間）純利益	6,221	4,736
法人税等	2,792	1,839
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△ 30	517
四半期（中間）純利益	3,459	2,381

連結キャッシュ・フロー計算書

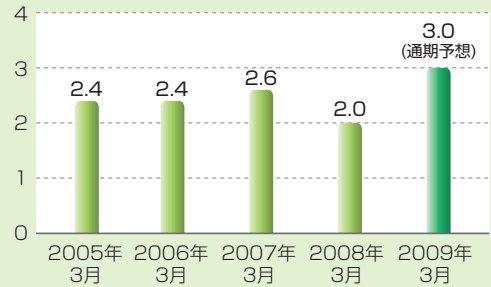
単位:百万円

	当第2四半期 累 計 期 間 (2008年 4月～ 2008年 9月)	前中間期 (2007年 4月～ 2007年 9月)
営業活動によるキャッシュ・フロー (うち減価償却費)	7,834 (2,933)	3,737 (2,776)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,039	867
財務活動によるキャッシュ・フロー (うち配当金の支払額)	△ 1,191 (△ 1,208)	△ 2,037 (△ 2,412)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 121	47
現金及び現金同等物の増加額	4,483	2,614
現金及び現金同等物期首残高	31,389	36,057
現金及び現金同等物四半期末残高	35,873	38,671

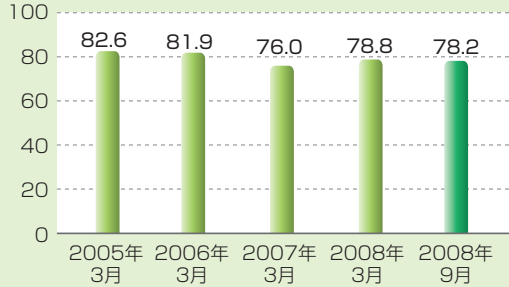
※前中間期は、適用される会計基準が異なるため、参考情報として記載しております。

連結経営指標

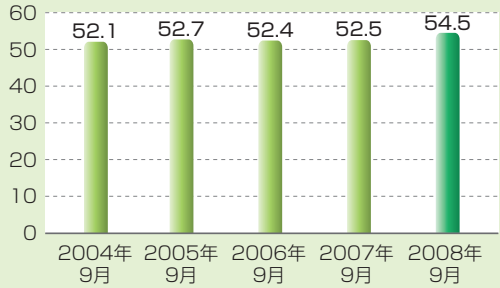
自己資本当期純利益率（ROE） 単位：％



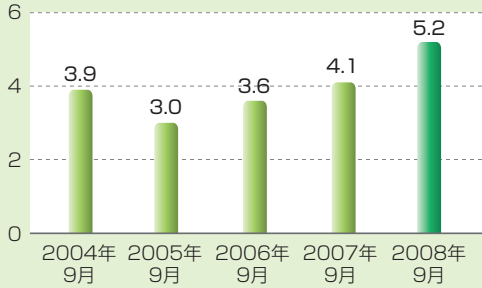
自己資本比率 単位：％



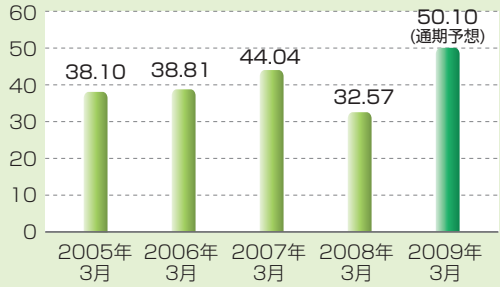
売上原価率 単位：％



売上高営業利益率 単位：％



一株当たり当期純利益 単位：円



※2009年3月期のROE、一株当たり当期純利益は、通期業績予想数値にもとづき算出しております。

貸借対照表

単位:百万円

	当第2四半期末 (2008年9月30日現在)	前 期 末 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	76,663	67,869
固定資産	139,325	141,740
有形固定資産	40,915	41,838
無形固定資産	2,842	2,869
投資その他の資産	95,569	97,034
資産合計	215,989	209,610
負債の部		
流動負債	31,573	28,746
固定負債	3,138	2,972
負債合計	34,711	31,718
純資産の部		
株主資本	177,013	174,104
資本金	9,948	9,948
資本剰余金	23,815	23,815
利益剰余金	144,566	141,651
自己株式	△ 1,317	△ 1,311
評価・換算差額等	4,265	3,788
その他有価証券評価差額金	4,265	3,788
純資産合計	181,278	177,891
負債純資産合計	215,989	209,610

損益計算書

単位:百万円

	当第2四半期 累 計 期 間 (2008年 4月～ 2008年 9月)	前中間期 (2007年 4月～ 2007年 9月)
売上高	79,929	84,306
売上原価	39,077	38,372
売上総利益	40,853	45,934
販売費及び一般管理費	34,916	41,699
営業利益	5,937	4,235
営業外収益	1,380	2,630
営業外費用	67	236
経常利益	7,250	6,628
特別利益	2	22
特別損失	474	831
税引前四半期(中間)純利益	6,778	5,819
法人税・住民税及び事業税	2,655	1,554
四半期(中間)純利益	4,123	4,265

※前中間期は、適用される会計基準が異なるため、参考情報として記載しております。

会社概要

(2008年9月30日現在)

- ◆創業年月日 1913年11月11日
- ◆設立年月日 1947年6月7日
- ◆資本金 9,948,323,523円
- ◆事業内容 食品製造加工ならびに販売、その他
- ◆従業員数 2,273名
- ◆所在地 大阪本社／〒577-8520
大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号
TEL 06-6788-1231（大代表）
東京本社／〒102-8560
東京都千代田区紀尾井町6番3号
TEL 03-3264-1231（大代表）

役員

(2008年9月30日現在)

取締役社長	小瀬 防	常務執行役員	尾崎 俊郎
取締役副社長	浦上 博史		早川 哲三
取締役専務執行役員	松本 恵司		伊藤 研三
			野村 孝志
取締役常務執行役員	溝渕 寛		堀尾 啓司
	菊池 敏朗		加藤 智一
	井上 始		加藤 昌男
	広浦 康勝	執行役員	山口 守世
	藤井 豊明		一柳 和文
取締役	山本 邦克		藤村 浩史
			工東 正彦
監査役	藤堂 勝久		青山 寛二
	吉村 光央		坂元 竜二
	由本 泰正		久住 喜代晴
	北村 卓三		西田 太一
	治郎 丸清志		柴原 弘一

グループ会社

(2008年9月30日現在)

連結子会社 (16社)

●国内会社 ●海外会社

- 株式会社デリカシェフ
- サンハウス食品株式会社
- ハウスウェルネスフーズ株式会社
- ハウス物流サービス株式会社
- 株式会社ハウス食品分析テクノサービス
- サンサプライ株式会社
- 株式会社エスバック
- ハイネット株式会社
- 朝岡スパイス株式会社
- 株式会社エイチ・アイ・イー
- ハウスフーズホールディング USA Inc.
- ハウスフーズアメリカ Corp.
- 上海ハウス食品有限会社
- 上海ハウスカレーココ壱番屋レストラン有限会社
- 台湾カレーハウスレストラン株式会社
- 韓国カレーハウス株式会社

持分法適用関連会社 (4社)

●国内会社 ●海外会社

- 株式会社ヴォークス・トレーディング
- 株式会社壱番屋
- サンヨー缶詰株式会社
- 上海ハウス味の素食品有限会社

株式の状況

(2008年9月30日現在)

発行済株式総数 110,878,734株
発行可能株式総数 391,500,000株
株主総数 31,518名
1単元の株式数 100株

《2009年3月期配当金》

	1株あたり配当金
第2四半期末	11円00銭
期末(予想)	11円00銭
年間(予想)	22円00銭

大株主

(2008年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
ハウス興産株式会社	125,856	11.35
スティー爾パートナーズ ジャパン ストラテジックファンド(オブショア), エル. ビー.	70,246	6.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	64,031	5.77
株式会社HKL	60,000	5.41
株式会社三井住友銀行	36,680	3.31
財団法人浦上食品・食文化振興財団	28,722	2.59
浦上節子	27,376	2.47
味の素株式会社	26,935	2.43
日清食品株式会社	24,634	2.22
日本生命保険相互会社	23,060	2.08

株主優待

毎年3月31日現在、当社株式100株以上を所有されている株主さまを対象に、下記の基準により当社グループの製品詰合わせを贈呈いたします。

100株以上1,000株未満

[1,000円相当の詰合わせ]



1,000株以上

[3,000円相当の詰合わせ]



※2008年3月31日現在の株主さまに贈呈した株主優待製品です。

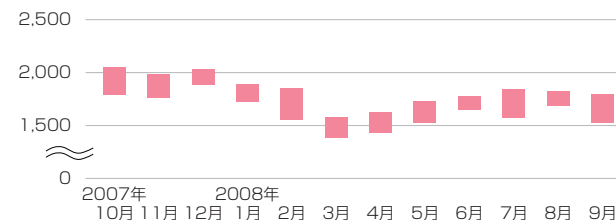
株主メモ

- ◆ 事業年度 4月1日から翌年3月31日
- ◆ 中間配当制度 あり
- ◆ 定時株主総会 毎年6月開催
- ◆ 株主名簿管理人 住友信託銀行株式会社
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
- ◆ 同事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
- 【郵便物送付先】 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 【電話照会先】 住所変更用紙のご請求…………… ☎ 0120-175-417
その他のご照会…………… ☎ 0120-176-417
- ◆ 同 取 次 所 住友信託銀行株式会社 全国各支店
- ◆ 公 告 の 方 法 電子公告により、当社ホームページ <http://housefoods.jp>
に掲載して行います。
ただし、電子公告を行えない事由が生じたときは、
日本経済新聞に掲載いたします。
- ◆ 上場証券取引所 東京・大阪
- ◆ 証 券 コ ー ド 2810
- ◆ ハ ウ ス 食 品 ハウス食品株式会社 総務部 総務課
株 主 さ ま 窓 口 〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号
電話 (06) 6788-1214

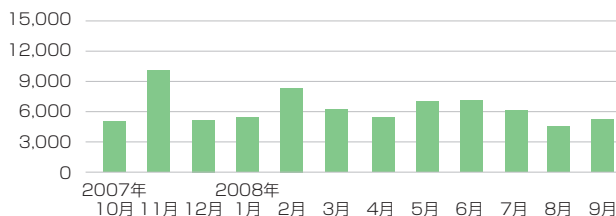
株価・出来高の推移

〈東京証券取引所〉

■ 当社株価 (単位:円)



■ 当社出来高 (単位:千株)



株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について

2009年1月5日に株券電子化となる予定です。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主さまの口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主さまには、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

株券電子化に係る買取請求のお取扱いについて

株券電子化への移行に伴い、施行日前後における単元未満株式の買取請求につきましては、一定期間受付できないこともございますので、お含みおきいただきますようお願いいたします。

ホームページアドレス <http://housefoods.jp>

ハウス食品株式会社 〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号